



ちよろかわナマイキ後輩
収録台本

キャラクター：ミコト

ファイル：b03_p01

	◆□◆ ちよろかわナマイキ後輩と毎日全肯定しあって相思相愛ナマハメセックス ◆□◆
	▼パート1▼
	◆補足…季節を夏で想定しています。ミコトと一緒に主人公のアパートに帰ってきたところです。
	●SE：蝉の鳴き声。
	●SE：アパートの階段を上る足音。
	●SE：ドアの開閉音
	◆位置・正面…ミコトが先に部屋に入る・
ミコト	miko_b03_p01_001 「んしょつと……はるつ、暑いッスね。……邪魔しまーッス！ うひー、部屋蒸し蒸しじゃないッスか。エアコンのゝ、リモコンはゝ、あった！」
	●SE：スイッチON
ミコト	miko_b03_p01_002 「につひひ。先輩、電気代、ゴチになりまーッス！ そんじゃ早速いっちゃいますか」
ミコト	miko_b03_p01_003 「あ、先輩は甘くてしゅわしゅわのジュースみたいなやつッスね。あたしは、こっち、いかせてもらいますんで。ストロングのやつ！」
	◆補足…部屋のベッドの縁に並んで腰掛ける二人。
	◆位置・右隣…肩が触れ合うほどの距離。
	●SE：缶 開ける
ミコト	miko_b03_p01_004 「んくっ、んくっ、んっ……プッハァゝ！ くうー！ 生き返るうー！ 最高ー！ はあゝ……ンッ……「くっ……ふう」
	◆位置・正面下…主人公越しにお酒を取ります。隣から主人公の前に身を乗り出す体勢。そのまま主人公の膝の上で飲みます。

ミコト	<p>miko_b03_p01_005</p> <p>「先輩先輩。そっちのカワイーのも、味見していいっスか？ ……やった♪ いただきまーっす。んくっ ……んっ ……ふう ……」</p>
	<p>◆位置・正面下…頭上の主人公に向けて笑いかける</p>
ミコト	<p>miko_b03_p01_006</p> <p>「んー、ジュースっすね。これアルコール入ってんすか？ ……2パー。先輩、カワイーッスね。にひっ」</p>
	<p>◆位置・正面…主人公の前に立ちDVDをセット</p>
ミコト	<p>miko_b03_p01_007</p> <p>「さてさて今日の本題はー、じゃん！ ミコトちゃんイチオシ映画ッス！ 先輩がまだ観たことないなんて意外ですねー。こういうのあんましキョーミないですか？ あ、大丈夫ッスか」</p>
	<p>◆位置・右隣…主人公の隣に戻ってきて座ります。</p>
ミコト	<p>miko_b03_p01_008</p> <p>「いや、あたしが選ぶ映画としてもちょっと珍しいっというか、人に言い難いっというか、めっちゃラブロマンスなんで ……でもSF設定が生きててめっちゃいいんすよ」</p>
ミコト	<p>miko_b03_p01_009</p> <p>「まあまあ見てみてください。それじゃあ再生しますね？ いざっ」</p>
	<p>◆補足：DVD再生。編集ではしばし間をとります。</p>
	<p>◆位置・右隣…主人公に寄りかかってましたが「泣いてないっす」で離れます。</p>
ミコト	<p>miko_b03_p01_010</p> <p>「 ……グスッ ……、ズズッ ……はー、ズビーッ ……すんっ。 ……え？ なっ、泣いてないッス！ てか先輩こそ泣いてないッスか！？ ……へへへへへー、楽しんでもらえたみたいで嬉しいなー」</p>

ニコト
miko_b03_p01_011
「……めっちゃ面白かった、ツスカ？ えーへーへー
へーへー……そうでしょ？ いや、コレ、人に
勧めるのが中々むずかしくて……」

ニコト
miko_b03_p01_012
「恋愛モノだと思って貸すと、S設定で躓いちやうん
ス。で、S愛好家にすすめると、パッケージでもう
引かれちゃって……え、ラブストーリーかよ、
みたいな……」

ニコト
miko_b03_p01_013
「でも、どっちもあるからこそ、この余韻なんスよ
ねっ。いや、先輩なら分かってくれると思ってた
ツス！ 吞んでください、さあさあ！」

（主人公：ニコトの選ぶ映画、センスあるよ。これ知らなかった、すごいよ）

◆位置・正面下：「って、ここにあるし」で主人公の前に身を乗り出し、酒を手
にとります。

ニコト
miko_b03_p01_014
「えっ？ え、先輩にすごいって言われると照れ
るツスよ。いや、今なら美味しい酒が飲めそ
うツス……って、ここにあるし！」

●SE：プルトップ開栓

◆位置・右隣：隣に座り直します。

ニコト
miko_b03_p01_015
「んくっ、んくっ、んっ、んっ、んっ、プハァーっ！
はあー、先輩に褒められながら飲む酒は美味いっ
スね。……マジですって。先輩、褒め上手なこ
ありますよね？」

ニコト
miko_b03_p01_016
「あー、新歓のときめっちゃ褒め殺されて、それで
入部決めたところありますし。あ、部っていうか、
同好会ツスけどね」

ミコト

miko_b03_p01_017
「……ぶっちゃけ最初、映画同好会って、偏見あったッスよ。映画知識でマウント取り合うのかなー、とか。好きな映画、鼻で笑われたらヘコむなー、とか」

ミコト

miko_b03_p01_018
「……今もよく覚えてるッス。見学に行ったとき……先輩、目えキラッキラさせて映画のこと話してくれて……っふふ。笑っちゃうッスよ、ふふっ、ふふふふっ……」

◆演技…酔って笑い上戸っぽいミコト

◆演技…以降、基本的に酔っ払いです

ミコト

miko_b03_p01_019
「そんでアタシ思ったんですよ。この人がいる部なら……いや同好会ッスけど……あたしも楽しく語れるんじゃないかな？　って……」

◆補足…したら先輩（「そしたら先輩」短縮形です）

ミコト

miko_b03_p01_020
「したら先輩、マジで聞き上手だし、褒め上手だし、好き嫌いせずなんでも観てくれるし、なんでもオススメしてくれるし、しかも全部面白いし……」

ミコト

miko_b03_p01_021
「あ、こんど池袋の映画祭行きます？　まだ日本配給未定のめっちゃイイやつ来るんすよ。行きましよう絶対。二人つきりで。決まりっすね！　やったー！」

ミコト

miko_b03_p01_022
「……ほら、そうやって優しいじゃないですか、そんなところがあたし、マジで好きで……」

◆演技…お酒を飲むミコト

ミコト
「んっ、んっ、んくっ、んっ、んっ……ぶはっ!？
あたし、今なんか言ってたツスカ!？ は……え……
……? あえ!？」

ミコト
「いや……そ、そういう意味ッス、けど……あ、あた
し! 先輩のことが……好き、でス……」

(主人公：オレも、ミコトが好き)

ミコト
「はうあ!？ マジっすか!？ 先輩それ、ガチっす
か？ えー、どうしよう……めっちゃ……嬉しいッ
ス……ズビッ……いや泣いてないッス……さっきの
映画のせいです……グスッ」

ミコト
「……いやもう、ミコト、飲みます!」

ミコト
「ゴクッ、ゴクッ、ゴクッ……ぶは……けふっ、ん……
……はふ……」

◆位置・右隣密着…主人公にしだれかかり、囁くように（以降しばらく）。まだ耳元ではありません。

ミコト
「……先輩？ ……あの、あの、じゃあ、あたしたち
……カレカノって事っスよね？ じゃああの……
さっきの……映画でやってたやつ、してもいいッス
か……?」

ミコト
「うひゃ、緊張……する……んっ、ん……ちゅ……
…」

ミコト
「あはは、初チューっす……先輩の口、甘いッスね……
……ちゅ、ちゅっ……ちゅ、……ん、ふあ……口開け
てチューすんの、むずかし……」

ミコト
「ンッ、ちゅっ、れっ……れろっ……ちゅ、ンあ……
ちゅ、ぷあっ、ちゅ……はあ、はふっ、れろおっ……
ちゅ、んっ……はあ、はあ、はあ……」

ミコト
「へへっ……先輩の舌あつい……やらかいッス……は
むっ、ちゅ……れろ、ちゅっ……んんっ、んっ……
ゴクッ……ん……」

ミコト
「はあ……はあ、はあ……先輩のツバ飲んじやった……
……すっごいドキドキするッスね、へへ……なんか……
……えろいッスね……」

ミコト
「しかもなんか、先輩……チューしてるあいだに
ぎゅっしてくるし……めっちゃヤベーっす、ドキ
ドキして死にそうっす……」

ミコト
「あとなんか……先輩熱いッス、それ……率直に言っ
て勃起ッスよね……あは……興奮してくれてるんス
か……？ いやあ……照れるというか、へへへ」

ミコト
「……嬉しいッスね……あたしでも先輩を誘惑できた
んだなっつて……」

ミコト、主人公に褒めまくられる（ミコトは可愛い、男なら興奮しないはずがな
い等）

ミコト
「へあっ！？ いや、だからあ、褒め殺しッスよ、せ
んばあい……くすぐったくて、んふっ……へへへ、
えへへへへー、だから、そういうとこ……好きッス
……。……先輩？ あたし……」

◆位置・右隣耳元…至近距離で耳元に吐息混じりの囁き

ミコト
「舐めても、いいッスか……？ 先輩の、お、ち、ん、ぽ」

◆位置・正面下…主人公の足元に移動。足の間に入り込む。

ミコト
「んふふー♪ でわでわ……♪ うひゃあ、めっちゃガチガチっすね、釘打てるんじゃないスか。無理か。あはは。……ひえゝ……熱い……」

ミコト
「あんま可愛くないっすね、グロ……でも……なんか興奮するッス……先輩も、男だなあゝ。にひひっ……あ、これ……さきっぽ、なんか出てるッすよ。……ちゅっ……ん……はあ……」

ミコト
「ちゅ、ちゅッ……ん……味、なんか……しよっぱい？ んゝ……ちゅ、ちゅう……ぺろ、ぺろ……あゝ、これがカウパーっすか……ちゅっ、ちゅっ、ふふふ……エロ……あたしたち今めっちゃエロいっすね？」

ミコト
「ちゅ、ちゅっ……ふふー♪ 先輩のおちんぽ……ぴくぴくして、かわいいやつっすね、チュッ、ちゅっ、ちゅっ……」

ミコト
「ぺろっ……れろっ、れろおっ……ちゅっ、れろおっ……んっ、ちゅう……はふ……んっ……れろ……センパイのカチカチでスゴイっす……はあ、はあ……スゴイ……んくっ……あむうー！」

◆補足…啜える

ミコト	<p>miko_b03_p01_044</p> <p>「んむう、んあゝっ、ちゅっ、ちゅっ……ジュルルルッ……チュッ、ぷうっ、ふう……んちゅっ、ちゅっ……ンッ、ちゅっ……はふっ……はあ、はあ……すごい……先輩のおちんぽ美味しい……ちゅっ、はふ……」</p>
ミコト	<p>miko_b03_p01_045</p> <p>「熱くて、おっきくてえ……んあ……はあはあ……ふっ……先輩、『すごい』って、また褒めてくれるんスね？ そーいうトコ……だあい好きッスよ……。ちゅっ、ちゅっ……ちゅっ、はむう……」</p>
ミコト	<p>miko_b03_p01_046</p> <p>「ちゅううっ、れろっ、れろろっ……ちゅっ……ジュルゝっ、ちゅっ、ちゅうううっ、じゅずっ……んっ、はふ……」</p>
ミコト	<p>miko_b03_p01_047</p> <p>「んっ……気持ちーッスか？ せーんぱい、顔、溶けてるッすよ。ちゅっ、ちゅっ、ちゅう……ちゅっ……んっ、んっ、んぐっ、んっ、んっ……」</p>
ミコト	<p>miko_b03_p01_048</p> <p>「……ずちゅっ、ちゆるるっ、ちゅっ……じゅぶじゅぶっ、ずじゅじゅ……」</p>
	<p>◆補足…啞えながらセリフの部分は次の通り「びくびくしてる／あたしのお口／出して、先輩」</p>
ミコト	<p>miko_b03_p01_049</p> <p>「ちゅっ、びくびくしへるう……はふ、んむう……らひへ……ちゅ、あらしのおくちい……ちゅっ、らしへ、へんぱあい……っ！ ちゅっ……ちゅっ……ジュルルルッ」</p>
	◆補足…射精する主人公
	◆補足…啞えながらセリフの部分は次の通り出てる、お口、出てる

<p>ミコト</p>	<p>miko_b03_p01_050 「んっ、んっ、んーっっっ！？ んっ、んふっ、んくっ……！ んふっ、れへる……おくひ、れへるう……！」</p>
<p>ミコト</p>	<p>◆位置・正面下：主人公の足にしたらかかりながら miko_b03_p01_051 「んッ、んッ……んッ、ゴクッ、ゴクッ、ゴクッ……ぷはあッ……はあっ、はあっ、はあっ、はあ……はーっ、はああっ……んひひっ……まっずいっすね、先輩の精液……にへへ……」</p>
<p>ミコト</p>	<p>◆位置・正面下：そのまま寝てしまう miko_b03_p01_052 「でも……めちゃくちやドキドキして……めちゃくちや……うれしーっす……へへへへ……へへ……へ。あたし……ついに、せんぱいと……ぶぶぶぶぶぶに……うにや……」</p>
<p>ミコト</p>	<p>◆位置・正面下：そのまま寝てしまう miko_b03_p01_053 「……………すう、すう……すう、すう……」</p>
<p>ミコト</p>	<p>miko_b03_p01_054 「すう、すう……………すう、すう……んっ、んん……………」</p>
<p>◆演技：ミコトの寝息長めに</p>	
<p>miko_b03_p01_055 「んうん、せんぱあい、えへっ……………すう、……………すう、すう……」</p>	
<p>◆補足：寝息のままフェードアウト</p>	
<p>▼パート終了</p>	



ちよろかわナマイキ後輩
収録台本

キャラクター：ミコト

ファイル：b03_p02

	<p>◆□◆ ちよろかわナマイキ後輩と毎日全肯定しあって相思相愛ナマハメセックス</p> <p>◆□◆</p>
	<p>▼パート2…映画デート後ラブホで初体験</p>
	<p>●SE：繁華街のがやがや。22時頃。客引き等</p>
	<p>◆位置・左隣…はぐれないよう、主人公と手を繋いで歩いています。</p>
	<p>◆位置・左隣…雑踏の中で、声が届くようやや張ってます。</p>
ミコト	<p>miko_b03_p02_001</p> <p>「やー、観に来てよかったツスねー！ さすがの前評判！ これ、配給決まったらまたシネコンに観に行きましようよ先輩！ ぜったい売れますよこの映画。楽しみつすねー……てか……」</p>
	<p>◆位置・左隣近…「…つと」でよろけて主人公側に押されるミコト</p>
ミコト	<p>miko_b03_p02_002</p> <p>「なんか、映画館入る前と後で、町の様子大分変わってないツスか……？ 変なところにある映画館だなーって思いましたけどーていうか、だいぶ歩きましたけど、ここ、ドコっすかね…つととと、わっ」</p>
	<p>酔っ払いとぶつかりよろけるミコト。受け止める主人公。</p>
	<p>◆位置・左隣近…そのまま主人公に密着</p>
ミコト	<p>miko_b03_p02_003</p> <p>「ふー。先輩、すみません。……へへ、ありがとーございます♪ にしても、酔っ払い多いっすねー…微妙に坂道だし…。しくったなー、先輩とデートだってはりきっちゃって、ヒールなんか履いてきちゃった…」</p>
	<p>主人公、ミコトの容姿を褒めまくる。靴、服装、髪型等。</p>
ミコト	<p>miko_b03_p02_004</p> <p>「ぶえっ、え、せ、先輩？ あたしの服、そんなに覚えてたなんて……意外っすね。いや、意外じゃないツス…優しいって知ってたし……もう、嬉しいツスよお！ もう、もう！」</p>

ミコト	<p>miko_b03_p02_005 「靴も、服も、髪も…先輩に気に入ってほしくて、時間かけて悩んできたツスよ。んふふー、もっと褒めてもいいっすよ？ ミコトちゃん、意外と乙女ツス。にへへへー♪」</p> <p>ふざけて軽く肩タツクルするミコト。</p> <p>miko_b03_p02_006 「——でも乙女するのって疲れるんすね…慣れない服って、肩凝るな。あたし、ちよつと休みたいっす…あ、ホラ、先輩、見てください！ 映画見放題って書いてありますよ、あの看板！」</p>
ミコト	<p>◆位置・正面：「寄ってみませんか？」以降、主人公の前に出て引つ張る形</p> <p>miko_b03_p02_007 「『予約なしでも歓迎、リラックスルーム』…寄ってみませんか？ ちよつと靴脱いでソファーでのんびりしたいツス。あ、スイーツもあるー！」</p> <p>主人公、戸惑いつつも賛成。（「じゃあ、寄ってみようか」）</p> <p>miko_b03_p02_008 「やったー♪ 先輩、さつ、れつつーツス！」</p> <p>◆補足…場所移動。編集で少し間を開けます。</p> <p>●SE：雑踏OFF。ホテル入室。</p> <p>●SE：ソファに腰かけるミコト。ソファのフカフカ具合を楽しむ</p>
ミコト	<p>◆位置・正面下…主人公の目の前に座る</p> <p>miko_b03_p02_009 「ふいーっ、解放されたあー！ 先輩もこっちきて座るツスよ！ ふつかふかツスよー！ すごなこれ！？ 楽しいっ！」</p> <p>◆補足…主人公もミコトの隣に腰掛けます</p> <p>◆位置・左隣…主人公に密着。囁き声、甘えモードです</p>

ミコト

miko_b03_p02_010

「えへへ……疲れたッスね、先輩？　でもさっき、酔っ払いとぶつかっちゃったとき、支えてくれたの男らしくてときめいちゃったッスよ。先輩も、やっぱり頼れる男ッスね」

主人公、褒められて照れ隠し。「そ、そんなことないよ。疲れてない？　マッサージするよ？」勢いでマッサージを提案する主人公。驚くミコト。

ミコト

miko_b03_p02_011

「ふえっ、マッサージ？　い、いいッスよそんな、先輩だって疲れてるんじゃないッスか？　むしろあたしのほうこそ——」

◆位置・左隣・横に座ったまま太ももをマッサージ

ミコト

miko_b03_p02_012

「——いや、まじで、あの！　あたし、ふふっ、くすぐった……！　やっ、弱いんスよぉ……」

最初は遠慮するが、押し切られて受け入れる。

ミコト

miko_b03_p02_013

「先輩まじ、勘弁ッスよ、くふっ、くふふふっ！　んっ、ん……ふはっ！　ちよお、ダメッス、強めがいいっす！　やんわりされると、余計くすぐったいッスよお！」

くすぐったがりつつ、段々喘ぎ声に。

ミコト

miko_b03_p02_014

「ふふふふっ……んっ……んっ、あんっ……！　……い、今変な声、もお！　先輩のせいで変な声っ、んっ、ちよ……で、出ちゃうッス、恥ずかしいッスよ……」

ミコト

miko_b03_p02_015

「はあ、はあ……う、うう……んっ……もお……！　……あっ……、んっ、んっ……」

◆位置・左隣・太ももマッサージ終わり

ミコト miko_b03_p02_016
「んっ…ん、んっ…あっ…はあ…ん…あ…、お、終わ
リッスか？ お、お疲れ…ッス……はい、おかげで
ほぐれて、良いかんじッス…！」

ミコト miko_b03_p02_017
「…先輩、ゴッドハンドっすね。にひひ。さすがっ
す。手がおっきいし、力強いし、めちゃくちゃ気持
ちよかったー……」

主人公、褒められて調子にのる。「ほかにマッサージしようか」と提案。

ミコト miko_b03_p02_018
「え？ おかわり、良いんスか？ なんすかもう…大
盤振る舞いじゃないっすか…先輩そういう気前の
いいとこ、好きッスよ。じゃあ…、えっと…じゃ
あ……」

●SE：脱衣衣擦れ ブラウス、前ボタンを外すタイプで脱衣。ブラも外す

◆位置・正面：ベッドの上で正面で向かいあい、囁き甘えモード

ミコト miko_b03_p02_019
「…っ、…っも…お願いして、いいッスか…？ なんか
…苦しくて…え、映画館の座席のせいかもしれない
ッスね、へへ……」

ミコト miko_b03_p02_020
「先輩…め…っっちゃ見てるッすね…あたしのおっぱ
い、ど、どうですか？ 変じゃない？ 先輩の好き
な形してますか…？ ん…えへへ、その顔見てた
ら、分かるッス。気に入ってくれたんすねー♪ よ
かったあ……」

ミコト miko_b03_p02_021
「それじゃあ…先輩の手で…そのゴッドハンドで。
ふふ、あたしのことマッサージして、気持ちよく
してほしいッス」

ミコト

miko_b03_p02_022
「ほら、先輩、手。…なに遠慮してんスカ、あたしたちもうただの先輩後輩じゃないでしょう？ あたしの彼氏、なんですから…好きにしていいいんすよ。…
…ほら」

ミコトに手をひかれて胸を触る主人公。最初はおっかなびっくりだが、段々執着的な手つきに。

◆位置・正面近…距離を詰めて正面同士

ミコト

miko_b03_p02_023
「ん…っ。ふふっ、できるじゃないッスか。じょうずじょうず…んっ…へへ…先輩の手え、あったかい…んっ…はあ。…あたしのおっぱい、おっきい、っすかね、やっぱり」

ミコト

miko_b03_p02_024
「……昔はちよーつと悩んだときもありましたけど…
…今、ぜーんぶ報われたっすよ？」

ミコト

miko_b03_p02_025
「だって、ふふー♪ 先輩のその顔。…嬉しいッス。
先輩に氣に入ってもらうために、今日まで育って来たんすね、あたしのおっぱいちゃん…いっぱい可愛がってあげてほしいッス」

ミコト

miko_b03_p02_026
「んあ、ん…んっ、ん…はあ…先輩の手のひらでぎゅゝされるの、なんかドキドキする…伝わってますか…？へへ…ドキドキしてますよ、先輩…なんか段々、手つきもやらしくなってきたるしー？えへへ…♪」

ミコト

miko_b03_p02_027
「んっ、あ…んん…あたしのちくび…うあ…恥ずかしいッス…んあっ、こんなにツンって固くなって…先輩の手が気持ちよくて…はあ、もっと…もっと触って欲しいッス…先輩の指で、ちくび…いじって…
…？」

乳首を責める主人公。

ミコト

miko_b03_p02_028
「んんっ…あっ…はあ、はあっ…はあ…っ、んっ…
…！ ああ…！ 指できゅって、つままれると…
背中、びくびくしちやって、へんな感じッスね…」

ミコト

miko_b03_p02_029
「でも…身体の奥がぼわーって温かくなって…
ぼーっとしてきて…気持ちいいッス…先輩、もっと…
…もっと、その指で…いっぱい触ってください…
…」

乳首の責め激しくなる。はっきり感じて喘ぎも遠慮がなくなるミコト。

ミコト

miko_b03_p02_030
「んあッ…！ あっ、あっ…ううっ！ はあっ、
はあっ…ひうっ！ ふやうんっ！ あっ、あ、先輩
そっっ、ちくびもっと、いじめてほしいっす……」

ミコト

miko_b03_p02_031
「そう、くりくりって、こねこねしてえ、ああっ…
あっ、あひんっ…せ、先輩…先輩、せんぱあい…
こっちも、マッサージ…してほしい……」

主人公の手、ミコトの股間へ。手マン。

ミコト

miko_b03_p02_032
「うあっ…んっ…あ——ぱんっ…ぐしよぐしよッ
スね…へへ…この下着も…悩んで選んだッスよ、先
輩好きになって…白と黒どっちが興奮するのかなっ
て…、どっちが良かったんすか…？」

ミコト

miko_b03_p02_033
「へへへ…今度、一緒に下着、買いに行きます？ 先
輩の気に入ったやつ履きたいな……」

ミコト

miko_b03_p02_034
「……あうんっ…あっ、やば…指い…先輩、あっ、あっ…弱いとこ、こすってるっす…だめっ…あっ、ああッ…！ ゆびっ…つまんじゃ、だめ…」

ミコト

miko_b03_p02_035
「ぬるぬる滑って…んあっ、ひうんっ…！ はあっ、はあっ…身体、あつい…あ、あ…ッ、んやつ……！」

ミコト

miko_b03_p02_036
「先輩ゆびっ、あっあっ、先輩、せんぱいっ…あうう…！ そこっ……そんなにっ！ こすられたら、あっ、あたし、ひうつ…！ んう！ んうううつ、んっ…！」

クリ責めで軽く絶頂するミコト。

ミコト

miko_b03_p02_037
「はあっ……はあ、ああ……っ、はあ…やば……せんぱい、あたし…今、軽く……イッちゃった…先輩の指で……い、イッちゃった…あう、恥ずかし…っ、はあ」

ミコト

miko_b03_p02_038
「でも……なんか胸の奥からじわ…って、先輩のこっ…好き…って気持ち、が、やばい…感じ…です…まじで…なんすかこれ？ ……愛？ あ…」

主人公の勃起に気付くミコト。

ミコト

miko_b03_p02_039
「……先輩、それ…ふへへ、めっちゃデカくなってないッスか？ 興奮したんすか？ …先輩、あたし…したいんスね？ えへ…えへへ、照れるなあ。嬉しい…先輩先輩、ぎゅ…！…ってしてください！」

◆位置・正面…耳元囁き（正面から抱きついて左の耳元に）

ミコト

miko_b03_p02_040
「あたしも、大好きな先輩と一つになりたいっす……
先輩、あたしの処女、もらってくださいね」

●SE：ベッドに押し倒す物音

期待しつつも怯えがあり、強がるミコト。

◆位置・正面下…正常位、主人公が上

ミコト

miko_b03_p02_041
「ん…先輩…いつでも、いいッスよ……あたしの、こ
こ……、奥までずっぷり、気前よくやっちゃってく
ださい…。ナマで、いいッスよ？ だって先輩、あ
たしの彼氏じゃないッスか…」

ちよっとずつ挿入。

ミコト

miko_b03_p02_042
「あ、あ……先輩の、さきっぽ……熱い…んっ、
んっ、あ…あ、あ…こじ開けられちゃ——うんん
んっ…、あっ、ううっ…！ 中…あああ……っ、
入って、くるっ…ううっ……」

ミコト

miko_b03_p02_043
「はあ、はあっ、はあっ、はあっ、はあっ……！
んうっ！ いッ……」

痛がるミコト。心配する主人公に強がる。

ミコト

miko_b03_p02_044
「へ、平気ッス、先輩…そんな顔しちゃ、いやっす…
…ね、処女喪失祝いに……キス、してくれそうですか？
えへ…、んっ、チュっ…ちゅ、んっ…ふふ、痛く
なくなっただッス……」

ミコト

miko_b03_p02_045
「ねえ先輩？ マッサージも、して欲しいッス…」

ミコト

miko_b03_p02_046
「んっ……あう、先輩……おっぱい触る手え、優しいです
ね……キスも、すごく優しい……んっ、はぁ……はぁ……
ん……あ……んん……はぁ、はぁ……慣れてきた、かな……？」

ミコト

miko_b03_p02_047
「えへへ……すごいッスね、今……あたしのおまんこ、先輩のおちんぽで埋まっちゃってるッス……へへへ、すごい……あたし、先輩とセックスしてる……ナマハメセックスしてる……はぁ、はぁ……嬉しい……」

ミコト

miko_b03_p02_048
「先輩……もっとお、おっぱい、こーやって揉んで……んっ、あ……あっ、あ……ちくびもいじめて……先輩、んっ、あっ……きもちい……きもちいいよ……」

ミコト

miko_b03_p02_049
「はぁ、はぁ……っ、も……動いて先輩……大丈夫だから……動いて欲しいッス……」

動き始める主人公。

ミコト

miko_b03_p02_050
「んんんああああっ、ひううんっ……！　すごい……おちんぽ引っ張り出されるの、やば……ああああっ、あっ……うううう、お腹の奥、ぞわぞわする……きもちい……んあっ」

ミコト

miko_b03_p02_051
「……先輩今の……もう1回……ううん、もっといっぱい……出して抜いて、いっぱいしてっ……」

。ピストンする主人公。

ミコト

miko_b03_p02_052

「あっ……！ あっ！ あっ！ あっ……ううっ、あゝっ！ あっ、やっ……それえっ……すごっ、やばッ、ああああっ……！ 先輩っ、んゝっ！ 先輩っ！」

ミコト

miko_b03_p02_053

「はあ、はあっ……はあっ、ひやうん！ あっ……じゆくじゆく言ってるッス、あたしのおまんこ溶けちゃったみたい……」

ミコト

miko_b03_p02_054

「先輩、あたしこんなに濡れてんの、人生初だと思えます……すごいッス……先輩との恋人セックス……やばい……幸せすぎてばかになっちゃう……」

ミコト

miko_b03_p02_055

「あああ……んっ、んっ……んっ……はあ、はあっ……もっど、もっとお……先輩、もっとして……？」

ミコト

miko_b03_p02_056

「うん……きもちい……いっぱいかきまわして……お腹の裏っ側、おちんぽのでっぱったところで、ほじほじしてほしいッス……んっ、あっ」

ミコト

miko_b03_p02_057

「……あっ……あああ……せんぱいっ、あっ、あっ！ あっ、きたあっ、あっ、あっ！ 先輩のおちんぽおっ！」

ミコト

miko_b03_p02_058

「ずんずんって、おへそまで届くっ、んあっ、ああああっ！ あっ、あっ、あっ、あっ……んううっ、いっぱいほじって、先輩ほじってっ、あたしの気持ちいいと……ゴシゴシしてるっ、あああっ！」

ミコト

miko_b03_p02_059

「ひゃうっ、うゅうううっ、あっ、あああっ！」

ミコト
「なんすか先輩、なんでそんな腰動かすの上手いんすか？ あたしの気持ちいいところなんで全部分かるんすか？ あううううっ、困るツスよ、先輩の触ったところ全部きもちくなっちゃって……」

ミコト
「ああっ、あっ、うううっ、先輩っ、もっとっ……もっと、もっとしてほしいっす……いっぱい動いて欲しいツス……先輩もいっしょにきもちくなっってえ……」

ミコト
「はあ、はあっ……はあっ……せんぱい……せんぱいっ、せんぱい……っ」

◆補足…主人公激しいピストン。イキそうと申告する

ミコト
「うううううっ、ああううううっ、ああっ、すっ……激しっ、んあああっ……せんぱいっ……出して……中を出していいっすよ……先輩あたしもっ、イッちゃう、あっ、あっ、イク、あ、あっ、あっ、あ————！！」

◆補足…同時に絶頂する二人。

ミコト
「ああああああっうううううううっ……っふ、っく、っ、はあっ、はあっ……はあっ、はあっ……あ……あ……イツてる、あ……んっ……先輩……」

ミコト
「びゅーびゅー出されてる、あたしの奥……先輩でいっぱいになってる……ああうう……あっ、あっ……またイクッ……あああああッ……！！」

ミコト	<p>miko_b03_p02_066</p> <p>「ナマハメで……中出しされて……イッちゃったツス……やばい……めっちゃ幸せ……」</p>
ミコト	<p>miko_b03_p02_067</p> <p>「はあっ、はあっ……はあ、はあっ……先輩……また胸の奥から、じわじわじわ……って……なんか湧いてきて……愛っすかね、やっぱこれ……」</p>
ミコト	<p>miko_b03_p02_068</p> <p>「先輩のこと、大好きってだけじゃ足りなくなってきたんすかね……えへへ……」</p>
ミコト	<p>miko_b03_p02_069</p> <p>「ちゅ……先輩、キスもっと……、ちゅっ、ちゅ……ん……はあ……先輩……」</p>
	<p>◆演技…呼吸落ち着くミコト。</p>
ミコト	<p>miko_b03_p02_070</p> <p>「……ホントのこと言うと、あたし、あの映画館選んだのって……ラブホ街に近いって思ったから……迷子というのも、その……仕込み……だったりにて?」</p> <p>(主人公「分かった、なんとなく気づいてたけど……いいよ」)</p>
	<p>◆位置・正面…至近距離でおでこをこっんとして囁き声です。</p>
ミコト	<p>miko_b03_p02_071</p> <p>「えへへ……先輩、ありがとうございます。あたし、まわりくどいことしちゃったツスね……つぎはストリートに言うツス。先輩エッチしよー! って……え、イヤっすか? ん、難しいなあ……」</p>
	<p>◆位置・正面遠…起き上がって主人公の前に</p>

ミコト

miko_b03_p02_072

「ね、ね、先輩。せっかく映画見放題の部屋なんだし……ちよつと見て行きませんか？　ねっつ。やったゝ！　それじゃあそれじゃあ……これどうっすか！？　まだ見てない？　よかったー！　そんなじゃ、再生っ！」

◆補足…はしやぐミコトの声　フェードアウト

▼パート2終了



ちよろかわナマイキ後輩
収録台本

キャラクター：ミコト

ファイル：b03_p03

	<p>◆□◆ ちよろかわナマイキ後輩と毎日全肯定しあって相思相愛ナマハメセックス</p> <p>◆□◆</p>
	<p>▼パート2…就活応援らぶらぶえっち</p>
	<p>◆補足…季節を冬で想定しています。</p>
	<p>●SE：料理中。チキンライスを炒める音</p>
	<p>◆位置・正面…ミコト視点なのでしばらく正面固定です。</p>
ミコト	<p>miko_b03_p03_001 「ふんふんふふーん、今日は同棲半年経過の記念日っすよ。先輩、あたしがオムライス作ったらどんな顔するかな？ 今から楽しみっすね」</p>
ミコト	<p>miko_b03_p03_002 「ふふ、早く帰ってこないかな。あ、でもオムライスって狙い過ぎっすか？ え、もしかしてちよっとイタイ……？ ……まっ、いっかつ。ウマイし！」</p>
	<p>●SE：階段上る足音 段々近づく</p>
	<p>◆演技…待ちきれずワクワクした様子で、小声で呼ぶミコト。</p>
ミコト	<p>miko_b03_p03_003 「お、帰ってきた！ 先輩、先輩♪ せーんーぱい♪」</p>
	<p>●SE：ドア開く</p>
	<p>◆補足…主人公視点に切り替わります。編集で少し間を開けます。</p>
	<p>◆位置・正面遠く近…主人公を出迎えるミコト</p>
ミコト	<p>miko_b03_p03_004 「おっかえりなさい、い……？ せ、センパイ？ どーしたっすか？ なんすかそのクソデカため息……」</p>
ミコト	<p>miko_b03_p03_005 「え、ちよ、泣いてました？ 泣いてない？ ホントっすかねー？ ほら、お外寒いんだからはやくだア閉めて」</p>
	<p>●SE：ドア閉める</p>

ミコト

miko_b03_p03_006
「……シューカツ。……うまくいかなかったんすか？
昨日あれだけイメトレしてたのに……真面目が裏
目に出ちゃったんすかねー」

ミコト

miko_b03_p03_007
「肩の力を抜くくらいでちょうどいいって自分で言っ
てたじゃないっすか。おー、よしよしよしよし、先
輩先輩、ほらほらあ」

落ち込む主人公を励ましたいミコト。頭をナデナデする等。

ミコト

miko_b03_p03_008
「んもー……大丈夫っすか？ おっぱい揉む？」

ミコト

miko_b03_p03_009
「ほら♪ ミコトちゃんのおっぱい、温まってるっす
よー、ほらほらあ」

主人公に胸を揉ませるミコト。

ミコト

miko_b03_p03_010
「もみもみ♪ にぎにぎ♪ なに照れてんですかあ、
指、力入ってきたじゃないっすか。ほら、エプロン
の下にご案内♪ んっ…はあ、はあ…」

ミコト

miko_b03_p03_011
「ニットの手触り、気持ちいいんじゃないっすか？
もふもふでしょ？ これ、めっちゃぬくぬくなんで
すよー。んっ……ん、先輩……んっ…はあ…ん…そ
うそう……元氣戻ってきたんじゃないっすか…？
はふ…」

主人公、ミコトの触ってきた乳首を責める。

ミコト	<p>miko_b03_p03_012</p> <p>「んあっ！ あっ…はは、見つかったっすね… …そうっすよ？ あたし、玄関でまだ靴履いたまま の先輩に、エプロンつけたままおっぱいもみもみさ れて…興奮して乳首固くなってきたっす…はあ、 はあ…ん……」</p>
ミコト	<p>miko_b03_p03_013</p> <p>「先輩…今日、同棲半年記念っすよ……ごはん作って たんですけど…はあ……」</p>
	◆位置・正面密着…耳元囁き（右耳）
ミコト	<p>miko_b03_p03_014</p> <p>「…あたし、えっちな気分になってきちゃったっす… …先輩最近いそがしーし、シューカツ頑張ってるの 応援したいし……でも…今日は、息抜きの日っす。 ね？ ベッド、いきましょーよ」</p>
	◆補足…場所移動 ベッドへ。編集で少し間を開けます。
	◆位置・正面下…ベッドの脇にたつ主人公を誘うミコト
ミコト	<p>miko_b03_p03_015</p> <p>「んっ…先輩…おいで♪ ほらほら、ミコトちゃん のほかほかおっぱいで冷え切った頭暖めてあげるっ す」</p>
	主人公の頭をむき出しの胸で包むミコト。
	◆位置・正面密着…ベッドで抱き合う二人。以降至近距離、耳元に囁き多めの声です
	◆補足…ちべたいⅡ「冷たい」です
ミコト	<p>miko_b03_p03_016</p> <p>「ふやッ、先輩の耳、ちべたいっすね。よちよちよ ちよち、頑張ったっすね……先輩はいつも頑張って るっすよ、いい子いい子」</p>
ミコト	<p>miko_b03_p03_017</p> <p>「ほら、好きなだけちゅーちゅーしていいっすから ねー？ んっ、あんっ…ふふ、そうそう♪」</p>

主人公、ミコトの胸を揉み、乳首を吸う。

ミコト
「んっ…あっ、…あんっ…あっ、…んんっ…はあ
はあっ…んっ、ひゃうんっ！ 舌あ…レロレロす
るの、エロいっす…」

ミコト
「んあっ、はうんっ…腰、ぞわぞわしたあ…はあ、
はあっ……。先輩の舌、あったかい…身体もぽかぽ
かしてきたっすね…♪ よかった…♪ いいこいい
こ……」

主人公の頭を撫でるミコト。

ミコト
「んっ、んや…はあ、んっ…ひゃうっ…ンッ！
かぶって甘噛みされると、お腹キュンってしちゃ
うっす…はあ、あたし、ちよいMなんですかね
…っ」

ミコト
「はあ、んんっ…はあはあ…ドキドキする…先輩が
夢中であたしのおっぱい吸って…はあ、んんっ…あ
ッ…時々そうやって強引なの…めっちゃ興奮す
るっすよ……」

ミコト
「はあ、はあっ…あっ、あっ…舌あ、それ、やば
…あっ…んんああっ…はあはあ…先輩…せん
ぱあい……」

ミコト
「…勃起してきたっすか…？ にへへ、先輩、元気取
り戻したっすね。んふふー。よきかな♪ あたしも
…先輩にちゅうちゅう吸われて、あそこ濡れて…
めっちゃぐしょぐしょになったっすよ、もお……」

ミコト 「でも、まだおあずけっす♪ 先輩のおちんちは、あたしがヨシヨシして慰めてあげるっす」

ミコト miko_b03_p03_025 「最近構ってあげてなかったんじゃないんすか、このおちんちん君を。ねー？ 構ってもらえなくて寂しかったっすよね？ …ウン！（裏声） …ほらあ、おちんちんもこう言ってるっす」

ミコト miko_b03_p03_026 「よーしよし、今日はあたしがかわいがってあげるからねー♪ なでなで、よしよし……」

ミコト miko_b03_p03_027 「先輩は、大人しくあたしの乳首吸って元気出して、あたしにおちんちんナデナデされて甘えてたらいいいんですよ。今日は頑張ってきたじゃないっすか。ね？」

ミコト miko_b03_p03_028 「んっ、あ……っひやう、んっ…はあ…先輩にちゅうちゅうされるの、気持ちいいっすよ…。ふう、んっ……こっちも負けないっす……」

ミコト miko_b03_p03_029 「なでなで、よしよし……よしよし、よしよし…温かいっすね……ぴくんぴくんって動いて、可愛いっす……」

ミコト miko_b03_p03_030 「はあ……んっ、はあはあ……先輩？ 先輩なら、出来ますよ。ちゃーんと出来ます。あたしはセンパイのすごいとこ、知ってますもん。きっと伝わりますよ、みんなにも。ね？」

ミコト	<p>niko_b03_p03_031 「だから元気だして、また明日から気持ち切り替えていきましょ？ ……頑張ってる先輩のこと、あたしはだーい好きっすよ。ふふふふー」</p> <p>niko_b03_p03_032 「…御社が弊社か知らないし、世界中のだれもが先輩のこといらなーいって言っても、あたしだけはぜったい先輩が必要っす」</p> <p>◆演技…「なーんて♪」まで甘い囁き声</p>
ミコト	
ミコト	<p>niko_b03_p03_033 「二のままひとりじめしちゃおうかな？ なーんて♪…わっと!?!」</p> <p>主人公、立ち直る。ミコトを抱きしめお礼を言う。</p> <p>niko_b03_p03_034 「んふふ。お礼を言われるほどのことじゃないっすよ。あたしのほうこそ、いつものお礼をしたいんです」</p>
ミコト	
ミコト	<p>niko_b03_p03_035 「先輩にはいつも愚痴きいてもらったり、レポート助けてもらったり、いっぱい褒めてもらったり、愛してもらったり…大大大、大感謝っす。感謝祭っす」</p> <p>主人公、ミコトを褒める。（いつも助かってる、支えになってる。可愛い彼女で最高等々）</p>
ミコト	<p>niko_b03_p03_036 「ほらあ、今もそうやってあたしを褒めてくれるじゃないっすか。……またお礼しないと、釣り合わないっすよっ」</p> <p>主人公を押し倒すミコト。</p>
	<p>◆位置・正面上…騎乗位の体勢。距離少し離れて主人公より上側に。</p>

ミコト

miko_b03_p03_037
「て」とで♪ 先輩に、お礼の騎乗位、しちやうつすよ？ ほらほら、元氣になったおちんちんを出すっす、そこにいるのは分かってるんすよ」

ミコト

miko_b03_p03_038
「……出た出た♪ あー、もうカッチカチっすね、かわいそうなくらい膨らんじゃってるっす……いま食べてあげるから、いい子で待ってるんですよー？んっ、ん……っ」

挿入するミコト。

ミコト

miko_b03_p03_039
「んあっ…はあ…んっ…ああ……でっばってるとこ、ずるんって入ってきたっす……ふあ、きもちい…っ、先輩…」

ミコト

miko_b03_p03_040
「んっ、はあはあ……もうちよつとで…ぜんぶう…、んうっ、んっ…んゝっ……はあっ、はあっ、はあっ……あああああっ……んんうううっ……入ったああ……」

ミコト

miko_b03_p03_041
「はあっ、はあっ、んっ、入った…けどおっ…んっ、はあ、苦しッ…ひさしぶりのエッチだから…穴、先輩の形忘れちゃってるっすよ…？ もう一度しっかり馴染ませて、忘れないくらい感じさせて欲しいっす……」

ミコトから腰を動かしてピストン開始。

ミコト

miko_b03_p03_042
「先輩……はあ、はあ……先輩こっち見て……あたしは、先輩のことずーっと見てるっす…だからほら…安心してください……」

ミコト
「んっ、んっ…先輩っ、先輩……がんばれっ…先輩が
んばれっ…んっ、んっ…がんばれっ、がんばれえっ
…はあっ、んっ、んああっ…」

ミコト
「ずぶって奥まで、んあっ、おへそまで届くうっ、先
輩のおちんちん奥つんつんしてるっす……♪ はあ
はあ……このままゆっくりする抜いて……
んあああっ」

ミコト
「はあはあっ…先輩の腰、今びくってした…ココっす
か？」

ミコト
「こっう、やっ、てえ……んっ、んっ…浅いトコロで、
ゴシゴシって、おまんこちゅくちゅくってこすりつ
けるの、気に入ったんすね？ ふふー♪ 良いっす
よ、先輩。いっぱい、いーっぱいしてあげるっす
♪」

ミコト
「はあ、はあっ……んっ、はあっ、はあっ……」しっ
しっ……ちゅくちゅくっ……んううんっ……」

ミコト
「はあ、はあ…先輩のおっ、お腹の裏っ側、ゴシゴシ
するのきもちいい…んっ、んあっ、ほらあ、ゆっく
りやると、先輩だらしない顔する……かわいい…
…」

ミコト
「余裕なくなっちゃう先輩、めちやくちや興奮するっ
す……はあはあ、はあはあ……ほら、ゆっくっり、
ゆーっくり……ちゅくちゅく…ちゅくちゅくってえ
…… はあ、はあっ、んああっ…んっ、ああっ…
…」

ニコト

miko_b03_p03_050
「コレ……やばいっす、あたしも……めっちゃ、感じて、
はあ、はあ……も、力入んない、んっ、んっ……
はあ」

ニコト

miko_b03_p03_051
「……先輩の、さっきよりおつきくて……んっ、はあ、
はあはあ、あたしのおまんこも、さっきよりぐちよ
ぐちよで……はあっ、んっ……ヌルヌルで……先輩の、
奥までずるって入って来ちゃう、んうあっ……あ……あ
ッ………！」

主人公、ニコトを突き上げる。

ニコト

miko_b03_p03_052
「あっ!?! あっ、ふかっ……先輩だめっ、深いっ
す、いきなりっ、んっ! あっ……! んんあああっ
……奥う、ずんずんされるのやばいっす……」

ニコト

miko_b03_p03_053
「ふわあっ……♪ 頭んなか、真っ白になっちゃうっ
す、ダメっす、あああっ……♪ きもちいっ……先
輩、せんばあい……もっと奥っ、ずぶずぶって……
♪」

ニコト

miko_b03_p03_054
「おちんちんきもちーっす、先輩、先輩……ふやああ
んっ………」

ニコト

miko_b03_p03_055
「あっ、あたしも……腰動いちゃう、止まんないっ……
あっ、はあ、はあっ、はあっ、んっ、んっ、んっ、
んっ………」

ニコト

miko_b03_p03_056
「はああっ、はあっ、先輩っ、先輩っ、先輩っ、
あっ、あっ、好きっ、奥好きっ、先輩のおちんちん
ずばずばすきっ、すきすきすきっ、もっとおっ、先
輩っ、せんばあい……っ」

ミコト	<p>miko_b03_p03_057</p> <p>「あっ、あっあっ…先輩っ、びくびくしてるっす、奥でビクビクしてるっ、もうイクんですか？ イッちやうっすか？ 嬉しいっ、あっ、あっ…先輩好きっ、好きっ、大好きっ…！」</p>
	<p>◆位置・正面密着…騎乗位から抱き合う体勢に。以降、ごく至近距離になります（ディーブキス）</p>
ミコト	<p>miko_b03_p03_058</p> <p>「先輩ちゅーしてえ…んっ、んんっ…ちゅっ、ちゅうううっ、ちゅっ、れろっ…ふっ、ちゅ…」</p>
ミコト	<p>miko_b03_p03_059</p> <p>「んっ、はあはあ、はあはあっ、やばいっす…ちゅーしたまま奥ずこずこされるの、ヤバイっすよお…んっ、んちゅっ、ちゅずっ…ちゅ、ぢゆるるっ、はふっ…ちゅ…」</p>
ミコト	<p>miko_b03_p03_060</p> <p>「せんぱあい…イッて…？ チューしたままいっぱいずこずこして、中で出してえ…？」</p>
ミコト	<p>miko_b03_p03_061</p> <p>「あたし、先輩に中出しされるの大好きい…先輩…先輩、先輩っ…ちゅっ、ちゅっ…ちゆるっ、れろっ…んっ、んふっ、んっ、んううううっ……」</p>
	<p>◆補足…射精&絶頂</p>
ミコト	<p>miko_b03_p03_062</p> <p>「んうううううううううううっ、んふうううううううううううっ…」</p>
ミコト	<p>miko_b03_p03_063</p> <p>「んあっ、ちゅっ…先輩、あっ、んっ…ああっ……あたしもイッてる、あう、先輩の中に出てるっ、ああっ、しゃせーされながらイッてるッ、ふわああ……」</p>

ミコト
「あああああ……はあ、はあ……っ……んっ、はあ
はあっ、はあっ、はあっ……はあ、はあ……んっ、
はあ、はああ……」

ミコト
「はあ、はあっ……はあっ、はああっ……はあ
ああっ、はあ、はあ……はあー……やば……せんぱ
いのおちんぽやばいっすね……」

ミコト
「はあ、はあ……めっちゃ飛んじやったっす……きも
ちい……はあ、はあ……はあ……ふふ……」

◆補足…余韻終わり

◆位置・正面近…寝転びながら向かい合って。B-ロートーク

ミコト
「先輩。元気、出たっすか？ んふふふふ。それなら
なによりっす」

ミコト
「先輩が元気なくなったときは、またおっぱい揉ませ
てあげるんで、いつでも言ってくださいね？ にひ
ひ」

ミコト
「もちろん、ちゅーちゅーしてもいいっすよ♪ 大好
きな先輩のためなら、あたしはいつでも大歓迎っす
♪」

ミコト
「……先輩。あたし、先輩と一緒にいるとめっちゃく
ちや幸せです。これってすごいことっすよ。あたし
たち二人、一緒なら、何があっても大丈夫っすよ。
ね？」

◆位置・正面耳元…顔を近づけて耳元で。

ミコト

miko_b03_p03_071

「だから……ずっと一緒にいるっすよ、先輩♪」

▼パート3 終了